

第16回

'05選抜女子駅伝 北九州大会

□ 期 日 / 2005年1月23日 (日)
□ コース / 小倉北区・小倉城歴史の道一
八幡西区・北九州プリンスホテル
折り返し 32.8km

一般・大学の部 5 区間 高校の部 6 区間

順位

一般・大学の部

1	資生堂(東京)	1° 44'23"
2	沖電気(宮崎)	1° 45'57"
3	パナソニックモバイル(神奈川)	1° 47'10"
4	サニックス(福岡)	1° 47'23"
5	第一生命(東京)	1° 47'29"
6	ワコール(京都)	1° 48'16"
7	デオデオ(広島)	1° 48'59"
8	十八銀行(長崎)	1° 49'45"
9	天満屋(岡山)	1° 49'56"
10	京都産業大学(京都)	1° 50'21"
11	TOTO(福岡)	1° 50'37"
12	名城大学(愛知)	1° 53'00"
13	北九州市一般選抜(福岡)	1° 58'17"

区間賞

第1区(4.2km)	藤永 佳子(資生堂)	13'13"
第2区(5.9km)	加納 由理(資生堂)	18'18"
第3区(5.1km)	堀本真理子(ワコール)	16'08"
第4区(5.9km)	佐藤 由美(資生堂)	19'19"
第5区(11.7km)	弘山 晴美(資生堂)	37'19"

高校の部

1	須磨学園(兵庫)	1° 47'03"
2	諫早(長崎)	1° 47'30"
3	興譲館(岡山)	1° 48'18"
4	大分西(大分)	1° 48'38"
5	戸畑商業(福岡)	1° 49'06"
6	立命館宇治(京都)	1° 50'29"
7	神村学園(鹿児島)	1° 51'29"
8	小林(宮崎)	1° 52'44"
9	千原台(熊本)	1° 53'08"
10	柳川(福岡)	1° 53'23"
11	済美(愛媛)	1° 53'51"
12	西条農業(広島)	1° 54'30"
13	山田(高知)	1° 54'45"
14	由良育英(鳥取)	1° 55'22"
15	多久(佐賀)	1° 55'36"
16	西京(山口)	1° 55'56"
17	北九州市高校選抜(福岡)	1° 57'01"
18	南部商業(沖縄)	1° 58'57"
19	九州国際大付(福岡)	2° 02'49"

区間賞

第1区(4.2km)	西山 弥生(須磨学園)	★13'22"
第2区(5.9km)	新谷 仁美(興譲館)	★18'35"
第3区(5.1km)	藤本 知佐(須磨学園)	16'33"
	野田 祥代(大分西)	◇
第4区(5.9km)	金子 麗(諫早)	20'00"
第5区(4.9km)	宮下 沙希(須磨学園)	16'14"
第6区(6.8km)	太田 有希(諫早)	21'06"

★は区間新



1区でトップに立ってそのまま独走し圧勝した資生堂のアンカー・弘山晴美

一般・大学の部

四つの区間賞 資生堂が圧勝 1区・藤永が飛び出し、一人旅

全日本実業団女子駅伝3位の資生堂が独走で初優勝を飾った。諫早高出身の1区・藤永佳子がトップに立って、そのまま一人旅。5区間のうち、四つの区間賞を奪う圧勝だった。

1区の藤永は2位のワコール・湯田友美に9秒差をつけてタスキ渡し。続く2区に加納由理が上下動の少ないフォームで、さらに後続を引き離れた。結局3区への中継所で、2位以下に49秒もの大差をつけ、勝利を決定づけた。

沖電気は中盤まで3番手と好位置につけ、4区の宮内宏子で2位に浮上、ソツなくつなぎ、2位に食い込んだ。連覇を狙ったワコールは3区までは2位につけたが、終盤の失速が響いて6位。パナソニックモバイルは2区の杉原加代の快走で、1区5位の遅れを取り戻して3位。サニックスが佐藤由布子、エバリン・キムエイの粘りで4位に入った。

藤永佳子・資生堂1区 「後半は少しバテました。でも、地元の大会ですから……」

弘山晴美・資生堂5区 「来週の大阪国際女子マラソンへ向け、いい調整が出来ました」

星善市・パナソニックモバイル監督 「ワコール、天満屋に勝つのは無理だろうと思っていたが、2区まででいい流れができた」

高校の部

都大路3位の須磨学園が諫早、興譲館降して連覇

全国高校駅伝3位の須磨学園が、全国チャンピオンの諫早、同2位の興譲館を降し、2連覇を達成した。須磨学園は5区の宮下沙希でトップを奪い、逃げ切った。

1区は須磨学園の西山弥生が区間新の快走。総合でも2番目のタイムでリードを奪った。2区で飛び出したのが興譲館の新谷仁美。須磨学園を抜いてトップに立ち、諫早に46秒、須磨学園に55秒の大差をつけた。3区も興譲館が首位を守ったが、諫早、須磨学園が追い上げを開始。4区では諫早の金子麗が首位を奪い、12秒差で須磨学園。興譲館は3位に後退し、この時点で優勝争いは諫早、須磨学園に絞られた。

勝負が決したのは5区。須磨学園の宮下が諫早を逆転し、6区との中継所では逆に30秒のリード。アンカーの脇田茜も堅実に駆け、ゴールした。諫早は4年連続の2位。3位は興譲館。全員が安定した走りを見せた大分西が4位初入賞。地元の戸畑商が5位に入った。

長谷川重夫・須磨学園監督 「2区の不振をばん回し、逆転できたのは距離の長いこの大会だからこそ。高校駅伝の短いコースではこうはいかない」

脇田茜・須磨学園6区 「都大路の雪辱？ まだまだ。全国大会で勝つまでは……」

金子麗・諫早4区 「最後は優勝して終わりたいけど……」



2連覇のゴールテープを切る須磨学園の脇田茜